令和２年度

各学校(園)長様
分校主任様
児童会･生徒会ご担当様

公益財団法人 日本ユニセフ協会
ユニセフ学校募金委員会委員長
赤 松 良 子

第65回ユニセフ学校募金趣意書

すべての子どもに、□を。

ユニセフ学校募金に、あたたかなご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

ユニセフ（国際連合児童基金）は、第二次世界大戦の影響で困窮した子どもたちの支援のために、1946年の国連総会で創設されました。被害を受けた日本の子どもたちも、大戦後の1949年から、先のオリンピックとパラリンピックが東京で開催された1964年までの15年間、ユニセフから、粉ミルクや衣類原料となる原綿、医薬品など、当時の金額で65億円もの支援を受けました。

ユニセフからの支援を受けた日本の学校の子どもたちは、そのお礼を記した手紙に、大切なお小遣いの中から10円玉の募金を添えました。これが日本におけるユニセフ募金の始まりです。この事がきっかけとなり、外務省と文部省そして厚生省（当時）のご協力の下に1956年に始まったユニセフ学校募金は、今年で第65回を数えます。

そして迎えた2020年。奇しくも、昨年度末に突如として襲った新型コロナウイルスの感染拡大は、グローバル化時代のリスクを具現化し、日本の子どもたちも、一時、学校へ通う日常を失うという大きな影響を受けることになりました。さらに、気候変動による影響はすでに全世界的なものとなっており、自然災害は、日本を含め、多くの子どもたちの暮らしを脅かしています。また、依然として多くの国が紛争を抱えています。自然災害や紛争、貧困は、かつてない規模の難民・避難民や移民を生み、日本もその流れと無縁ではありません。

世界の課題は、確かに私たち自身が直面する課題になっています。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs)」を達成し、持続可能な社会を築くためには、一人ひとりが世界の課題を自分ごととしてとらえ、できることを行動に移すことが求められています。

今年度もユニセフ学校募金では、「すべての子どもに、□を。」と、空欄を設け、皆さんに問いかけています。この問いかけから、子どもたちがグローバルな視点で課題を考え、空欄の中を埋める言葉を自ら見つけ、仲間と共にその実現に向けて行動してくれることを期待しています。主体的で対話的な学びに基づく募金活動を、皆さまの学校・園で展開していただくことを願っております。

2020年、世界から日本への注目が高まるこの年に、日本の子どもたちから世界の子どもたちに、希望のパスを届けることができるよう、ユニセフ学校募金活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。

for every child　unicef